

ななかまど Nana Kamado

Vol. 44

[北海道情報大学学内報] 2008年12月20日発行

意
志
蒼
天

CONTENTS

- 02 次世代情報化社会と大学院の役割
- 04 蒼天祭を終えて
- 06 蒼天祭2008PHOTOGRAPHY
- 08 新任教員あいさつ
- 09 Jゼミナール
- 10 2008年度スタートアッププログラム
- 12 SMAFT2008グランプリ&市民賞受賞
- 16 海外事情2008レポート
- 20 ゼミ紹介
- 21 クラブ紹介
- 22 PINE-NET II 運用開始
- 23 高校大学連携協定調印
- 24 学生サポートセンター便り
- 24 編入学生の日高宿泊研修
- 26 保護者懇談会の実施
- 27 大学説明会in札幌
- 28 大学説明会 参加者アンケート
- 32 主要行事・編集後記



発行:北海道情報大学

〒069-0832 江別市西野幌59-2 TEL.011-385-4411 FAX.011-384-0134

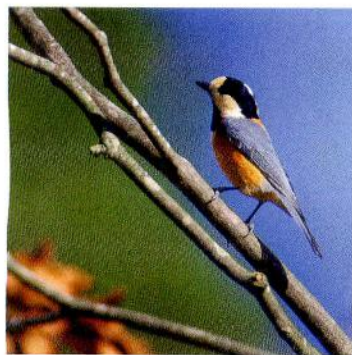
次世代 情報化社会と 大学院の役割



大学院研究科長
長井敏行教授

本学大学院研究科長の職に就いてから6ヶ月がたちました。少しずつですが、大学院は、次に向ってどうあるべきか、という考えがまとまってきました。それを述べて、就任の挨拶に代えさせていただきます。

本学大学院が創設されてから12年経ちました。その間の情報科学技術の発展は、目を見張るものがあります。ネットワーク上でやりとりされる情報量を飛躍的に増大させ、その結果、研究・ビジネス両分野でのボーダレス化とグローバル化が飛躍的に推し進められています。また、このような情報科学技術の進展は、ビジネスのあらゆる分野における情報技術の重要性だけでなく、当該分野において国際的な視野のもと、強いイニシアティブで次世代のビジネスを牽引できるコミュニケーション能力に秀でた優秀な人材への需要が高まっています。



これに対処するには、本研究科大学院生の海外を含めたインターンシップを実施することが不可欠です。理論面と実践面の両面からグローバルな視点に立って21世紀の科学技術の進展に貢献できる人材を育成する戦略を策定しなければなりません。こうした人材を継続して輩出することができれば、大学院の競争力の強化に繋がります。

現実には、難しい問題が立ちほだかっています。これはある程度解決することができます。インターンシップです。指導されている先生には、学生がインターンシップに行つた企業との連繫をとつただくのです。この関係を密にすればするほど、言い換えるならインターンシップ科目にかかわつただけではなく、ただかかわつただけではなく、新たな研究テーマの創出に繋がります。実践力が向上します。もっともこれには、企業側にも何らかの効用がなければなりません。そこで、インターンシップにかかわる大学院研

ません。特に、他の異分野と情報科学技術の融合を図る教育プログラムを策定し、国際的視野で先導できる人材を育成することができれば、本学研究科の競争力は、一段と飛躍的に強化されることとなります。



研究成果を企業と共有することにより、戦略的互惠関係を結ぶことです。

情報化社会の背景と要請に対していち早く呼応しなければなりません。国際的な視野を有し情報科学をさまざまな分野に先導できる人材の育成が急務です。より具体的には、育成する修士力を明確にしなければなりません。育成する3つの力を考えてみました。それは、

- ① 技術革新に耐えられる基本能力
- ② 実践展開能力
- ③ 実践スキル能力、の3つです。

・基本能力とは、将来の技術革新に耐えられる基本原理・原則を深く理解する力のことです。

・実践展開能力とは、原理・原則を活用して、具体的にモデルを展開することができる力のことです。

・実践スキル能力とは、実際に

現場で体験することにより修得する高度な実践力のことです。

これらを大学院の冒頭に打ち立て、これを合言葉にして、スキル指向と原理・原則指向との強化を図る教育内容・体制を充実し、企業等で先導的役割を担う人材を育成することです。

これらの育成する3つの力を方針として策定するとともにインターシップ科目を策定し、企業等で先導的役割を担う人材を育成する北海道における教育拠点の形成を目指します。また、大学院に入ってくる院生の多様化に伴い、主たる指導教員を含む複数の教員によるグループが、修士論文、特定課題研究の指導にあたる必要があります。

このように大学院の基本戦略の策定が望まれます。

このことにより、スキル

アップの向上を目指します。結果として、ワンランクアップの就職に繋がり、ひいては社会人としてのセーフティネットを自ら構築することになります。

国際的な視野から、21世紀の学術、ビジネスを先導できる人材の育成を目指します。近い将来、学術、ビジネスの国際舞台で活躍できる人材が本研究科から輩出されることを願い、誠意をもって取り組んで行きます。皆様には一層のご批評、ご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます、挨拶に代えさせていただきます。





特集

蒼天祭 2008



第20回蒼天祭を終えて



学生部長
松井 伸也

10月3・4日の二日間で第

20回 蒼天祭が行われました。

大学祭は学生実行委員会を

中心に企画と運営が行われ、

その準備には数ヶ月を要し

ています。本学の学生委員会

の長として感謝の意を表し

たいと思います。本学の大学

祭(蒼天祭)は前述の様に20

回目を数えます。本学は開

学より数えて20年目ですから、

初年度より続けてこられた

ことが分かって貰えると思い

ます。私も初年度から本学に

勤めています。最初の大学

祭(蒼天祭)という名前は付い

ていなかったと思います)に直

接関わった訳ではないので、

当初の苦労は知るよしもあ

りません。ただ初年度の蒼天

祭の手作り感と和気藹々の

雰囲気を感じだすばかりです。

写真①は、第2回目の大学

祭(1990年12月1・2日)

で行ったステージです。場所

は体育館で行いました。この

ときは、ラムネの早飲み大会

などもあったようです。写真



①



②



③

②は、準備をしているところ

です。手作りの感じが良く出

ていると思いませんか? 写

真③は、実際の様子です。こ

の中には、同窓会の会長が居

たりします。初年度の大学

祭には、これといった物もな

かったと思いますが、学生た

ちは楽しそうに大学祭に参

加していたと思います。

さて第20回蒼天祭は、この

写真の頃から始まった歴史の

上に存在します。当時から現

在までの学生・教員・事務の

三者が、より楽しい学校祭を

行いたい、大学以外の方にも

沢山来て貰いたい、という思

いで大学祭を充実させて来

たのです。今年の蒼天祭は、

ステージが充実し「よさこい」

のおかげでお客さんも沢山

来て頂いて大成功のうちに

終わった、といって良いと思

います。模擬店もなかなか充

実し、私は、蒼天祭の二日間

で、少し太ってしまいました。

ゼミの紹介・クラブの発表な

どもおもしろいものがありま

した。やはり良い結果であつ

たと思います。

さて、今一度第2回大学祭

の写真を見ると、そろそ

る原点に返って、学生にとつ

て楽しい大学祭を問い直す

時期かもしれません。現在の

大学祭は、「昨年やったから

今年も」といった繰り返しに

落ちついていないか、というこ

とです。さて最後に学生部長か

らの提案です。「体育祭」と「蒼

天祭」の時期を変えませんか?

蒼天祭を天気のいい時期にや

るとするのは、どう思われま

すか? 私は、実行委員会に

提案しましたが、誰も答えて

くれません。さらに楽しい蒼

天祭になると思いますが如

何でしょう?



蒼天祭

蒼天祭

蒼天祭

ようこそ蒼天祭へ
Hokkaido Information University

PHOTOGRAPHY



今年度の蒼天祭はその名の通り晴天に恵まれ、秋のはじめとは言え暖かい陽気に包まれながら行うことが出来ました。

私個人としての今回の蒼天祭の課題、というよりも皆さんに感じて欲しかったものは、「想像、創造、騒々」と言う三つの「そうぞう」でした。

祭りとは参加して楽しむ物、と言うのは当たり前のことですが、それだけでは参加者の視点でしかありません。

仲間と共に祭りの企画や模擬店のメニューや案を練る、これが想像。

その店や案を実際に仲間と共に作り上げる、これが創造。

完成したことに喜び、働き、お客さんには祭りの雰囲気を楽しみ、遊ぶ、これが最後の騒々。

どのような形であれ、蒼天祭という祭りに「参加」している全ての人が笑顔であって欲しいという私からの願いでした。

この願いは在学生の皆さん、教員の皆さん、一般参加者の皆さん、そして実行委員会の仲間の協力や支えによって、実現することが出来ました。

実行委員会に所属して3年目、私の人生の7分の1、長いようであっという間に過ぎてしまったこの3年間は、生涯にかけて一生の宝になる思い出を仲間からもらったと思います。

皆さんにも残りの学生生活では、色々な物に挑戦し、最高の思い出に出会えることを願います。

蒼天祭実行委員長 3年 梶野 貴大



新任教員

あいさつ

よろしくお願ひします



蔵本 信比古
KURAMOTO NOBUHIKO

本年10月に着任しました蔵本です。札幌生まれの道産子です。はじめは北海道大学理学部を卒業したのですが、思うところがあつて教育学部に編入学し、発達心理学を専攻しました。勉学熱心だったかという点にあらざる、当時から教育学部には幼稚園が

併設されており、就学前の園児たちの遊び相手の毎日でした。卒業後は北海道庁に採用となり、主として福祉関係の相談機関(児童相談所、精神保健福祉センター、女性相談援助センター)に約20年勤務しました。その中で、社会的ひきこもりのご本人、そし

てそのご家族との出会いがあり、その後自助グループを旗揚げするなど、今日まで10年あまりのおつきあいが続いています。私の専門領域は社会的ひきこもりなのですが、それは日常的な生活の延長上にあるものといえます。社会的ひきこもりのご本人、ご家族、そして関係者の皆さんに励まされながら研究を続けているというのが、いちばんふさわしい表現かもしれません。

一般に社会的ひきこもりというと、長期にわたつて期待される社会的活動(就学、就労等)をしない状態のことを指しています。たまたまの休暇ならいざしらず、年余にわたつてひきこもりの状態を続けるのは決して楽なことではありません。きつと何か訳があるのではないかと考え、調査に協力していただきました。するといくつかの特性が見つかりました。まず最初は、「対

人交流の開始/維持の困難」でした。これは、「話しかける/また会う」ということですが、そのどちらか一方が、あるいはその両方もが難しいことを意味しています。また、「こだわりの強さ」や「無関心」という特性も見られ、これは相手とペースを合わせるのが難しいことを意味しています。これらはどれも、ソーシャルスキルに関係するものといえます。一方で、大学生のひきこもり心性について調査を行った方もおられます。授業に出席している学生を対象に社会的ひきこもりというのも妙な気がするのですが、それはさて置いておきましょう。それによると、大学生のひきこもり心性として「評価への過敏さ」「自己否定」「孤立感」の3つが見いだされました。つまり、人の目が気になって、自分はだめだと思ひこみ、孤立を深めていく、だからひきこもりたい気持ちになるのだというわけです。この辺のことは、まだまだわからないことばかりですが、社会的ひきこもりの状態となる人には、どこかにこうしたひきこもりたい気持ちに対する感じやすさがあるように思えます。

おそらく、このひきこもりたい気持ちというのは、だれの心の中にも見え隠れしているものなのでしょう。とくに、混沌とした現代社会の荒波の中に否応なしに投げ込まれようとしている若者たちには、なおさらなのかもしれません。そして、本学の学生の皆さんもその例外ではありません。私は本学で心理学関連の授業や学生相談室の相談担当をすることになりますが、学生の皆さんのいろいろな思いをサポートして行けたらと願ひしています。どうかよろしくお願ひします。

Jゼミナール

経営情報学部教授 / 穴田 有一



教員有志が学生を誘って始めたJゼミは、今年度で2年目になります。Jゼミの正式名称はJゼミナールですが、昨年度、開始して間もなくJゼミという通称が定着しました。Jゼミの「J」は、自主・自立・自律・自由・情報大の

5つのJを表します。情報大の学生には何事にも人を頼らず自主的に取り組んでほしい、という気持ちが込められています。また、ものごとの是非を自覚して行動できる社会の構成員としての学生であってほしいとも思います。そのような学生にして始めて「自由」という実に扱いにくい果実を手にすることができるとののだと思います。

このような性格のゼミナールですから、単位にはなりません。知識を得たい、資格を取りたい、技術を身に付けたいなど、純粹に意欲と好奇心と継続の意志が動機の学習の場です。これらの他になんの制約もありません。嫌なら辞めても構いません。

2年目に入ったJゼミには、昨年度よりも多くの教員が参加してくださいました。参加した教員とゼミのテーマは表1のようになっていきます。



Flashで作る学生便覧

一見してわかるように、既存の学部学科のゼミテーマとは趣を異にするものも少なくありません。また、テーマを大まかに分類すると、「韓国を知ろう」、「徒然草を読む」、「星の距離・宇宙の広さ」などのいわゆる教養的なものと「独検チャレンジコース」、「TOEIC®対策講座」、「組込みシステム基礎十」などの実用・実技的なものに分類できます。そして、参加する学生

数は、前者よりも後者に偏っています。今年度についていえば、前者のゼミの中には開講したものもありません。実用・実技的なゼミに学生が多く集まるという傾向は、同様な講座を開講している関西国際大学でも同様らしく、今日の学生気質の一端が伺えます。参加教員数が増えたJゼミですが、その一方で、参加する

る学生数は昨年度よりも減少しています。講義などの際にJゼミの知名度を調べると昨年度に比べて非常に低いことがわかりました。昨年度は初年度ということもあり、学内PRを積極的に行いましたが、今年度は不十分だったようです。来年度は知名度が上がるように、学生へのPR活動に力を入れたいと思います。

今年度については、前年度のゼミの中には開講したものもありません。実用・実技的なゼミに学生が多く集まるという傾向は、同様な講座を開講している関西国際大学でも同様らしく、今日の学生気質の一端が伺えます。参加教員数が増えたJゼミですが、その一方で、参加する

Jゼミ参加教員氏名とゼミ名称

教員氏名	ゼミ名称
梅津	独検チャレンジコース
竹内	TOEIC_対策講座
立花	文学の愉楽
森山	数学検定チャレンジコース
広奥	フリーウェア探求〔前期〕
棚橋	Wiiリモコン特論
	プログラム言語II+〔前期〕
	組込みシステム基礎十〔前期〕
	iPhoneアプリを作りますか?〔後期〕
	レゴ部〔後期〕
外山	星の距離・宇宙の広さ
平子	韓国を知ろう
中村(鎮雄)	Google Earthから地球と世界を考える〔前期〕
斉藤(康彦)	徒然草を読む
穴田	恋愛とカオス〔前期〕
	「20世紀の物理学」入門〔後期〕

START UP
PROGRAM
2008

2008年度 スタートアッププログラム

副学長・原 暉之 / スタートアッププログラム小委員会委員長・穴田有一

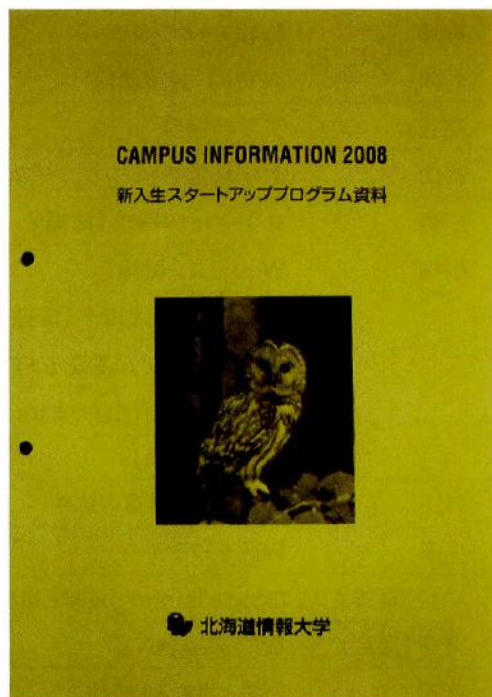
今年度、第1回スタートアッププログラムが実施されました。スタートアッププログラムは、新学期および後期の初めに、北海道情報大学の4年間の大学生活で何を目指し、何を学ぶのか自分に問い、学習の動機づけを図るとともに、主体的に学習する姿勢を培うことを目的としています。4月、新入生は不安と期待が入り混じったとても複雑な気持ちでスタートラインに立っています。大学という未知の世界に足を踏み入れるこの瞬間に、教職員から毎日の学習・生活について助言を受け、また4年間の学習について、その道筋を教員とともに考える時間を持つこととなります。そして、約半年後9月の後期開始直前には、半年間の大学生活を振り返り、次に続く半年間の学習計画を考えるとともに、卒業後に飛び込んでいく社会そして世界について考える時

間を持ちます。2年生以上については、4月と9月の新しい学期が始まる前に、大学生活に十分に慣れ、あるいは慣れすぎた自分に、改めて大学4年間の残りの期間で何を学ぶのか、卒業して何をを目指すのか問い直す時間を持ちます。

この十数年間に、大学は大きく変わりました。教員を主役とする「象牙の塔」から、学生を主役とする教育と研究の場が変わりつつある大学は、まだ変革の途上にあります。スタートアッププログラムは、本学の教育変革を議論する教育体制検討ワーキンググループの議論から提言された施策の一つです。

春季スタートアップ プログラム(4月)

4月のスタートアッププログラムは、約5日間の日程で行われました。新入生につい

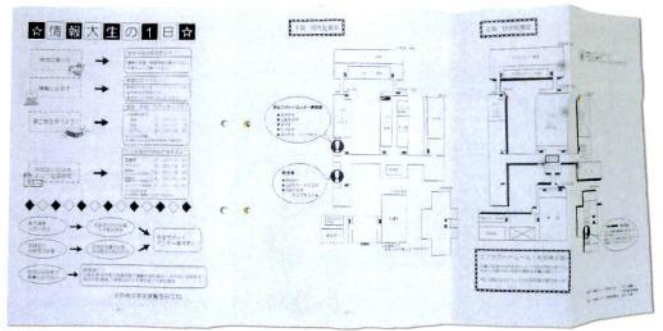


CAMPUS INFORMATION 2008
新入生スタートアッププログラム資料

ては、4月4日、入学式の式典に引き続き北海道情報大学の全体像を説明する「大学説明」が講堂で行われ、その後、各教室に分かれて「クラスミーティング」が行われました。新入生だけでなく、保護者の皆様にも同席していただき、クラス担任と所属学科専門教科教員各1名から自己紹介があり、クラス担任からは、学生生活の注意事項について説明されました。また、所属学科専門教科教員からは、学科の教育課程の概略が説明されました。その後の約5日

間、1泊2日の「宿泊研修」を含め、「学科ガイダンス」、「自己カリキュラム計画」、「履修説明」、「クラスミーティング」、「クラブ紹介」、「個別相談」などのプログラムが行われ、これから始まる大学生活の具体的な助言を得ながら、毎日の学生生活の過ごし方と卒業後の将来について考える時間を持ちました。

この期間、新入生はスタートアッププログラムのテキストともいえる「CAMPUS INFORMATION 2008・新入生スタートア



「情報大生の1日」のページ

され、アパートや寮で生活を始める学生を生活面でもサポートするように配慮されています。なお、授業開始1週間後には、学生相談室による「心の健康指導」と心理健康調査が行われ、新入生の悩み事に早期に対応するようにしています。

2年生以上については、3日間の日程で「学科ガイダンス」、「自己カリキュラム計画」

を行い、今後の学習計画と卒業後の進路について考える時間を持ちました。特に、2年生については3年への進級条件、4年生については卒業条件を満たしているかどうかについて、クラスミーティング、ゼミミーティングそして個別相談で確認するよう助言・指導を受けました。

新入生そして2年生以上の在学生は、スタートアッププログラムの翌週から始まる講義に備えて履修登録、教科書

購入、健康診断を期間内に済ませることができるよう日程を組みました。

秋季スタートアッププログラム(9月)

約1カ月半の夏休みを終えたところで、後期の講義に備え2日間の日程でスタートアッププログラムが行われました。

1、2年生はクラスミーティングで大学生活や前期成績について指導を受けたほか、自己カリキュラム計画で後期履修科目の再確認と履修登録の変更など履修計画の再検討を行いました。2年生は大学生活に慣れて余裕が出てくる一方で、就職活動や卒業研究という大きな目標がないので緊張が緩みがちになります。クラスミーティングや個別相談では、この点についても助言・指導が行われました。

3、4年生はゼミナールの指導員から1、2年生と同様の助言・指導を受け、後期の講義に臨みました。

このほか、秋季スタートアッププログラムでは世界の第一線で活躍されている4人の講師の先生を外部からお招きし、2日に分けて講演会を行いました。講師の先生と演題は次の通りです。

1日目(3、4年生向け)。
岩野和生氏(日本IBM大和開発研究センター、センター長)「最近のコンピューティングの動向」、大力修氏(経団連高度IT人材育成部会座長、総合科学技術会議情報通信PT委員)「ソフトウェア開発の近代工業化—ソフトウェアファクトリーへ向けて」。

2日目(1、2年生向け)。
スタンリー福山氏(ブラジルDESIFF

CEO、ポリテック・ジャパン副社長)「なぜブラジルで高度人材育成が行われたか」、稲村公房氏(元総務省政策統括官、中央大学教授、日立製作所・情報通信グループ顧問)「未来の国をいま生きる」。

3、4年生も1、2年生も、卒業後に自分たちを待ち構えている社会、そして世界の事情について熱心に耳を傾け、自分の将来を考え、そこから今の学生生活を考える貴重な時間を持ったことと思います。



大力 修氏の講演に熱心に聴き入る3、4年生

ッププログラム資料」を毎日持参しました。この冊子には各プログラムで使う資料だけでなく、北海道情報大学の教育理念、教養教育や専門教育の教育目標が簡潔に説明されています。また、各教員からの歓迎の言葉の他、学内施設の利用方法を学生の視点から学生が作成した「情報大生の1日」および大学周辺のATM・コンビニ・スーパーに関する情報地図も掲載

イ：グランプリ受賞おめでとうございます

橋：ありがとうございます (ノw`*)

黒：ありがとうございます。(´ω-)/

イ：グランプリだけではなく市民賞もW受賞ということですよ。受賞をはたして今どんな気持ちですか？

橋：グランプリが発表されたときは、喜びよりも驚きの方が大きくなって言葉がなかったけど、今はいろいろあったけどくじけないで頑張ってるよってホントによかったって思う(つω*)

黒：かなっち、リーダーがんばってたもんね(・v・)

橋：いやいや…全然だよ(´Д`A) 黒田君もすごい頑張ってたよね★

黒：めっちゃがんばってたよ。(v-)/

橋：ええΣ(´Д`)/認めちゃうんだ…笑

イ：黒田さんはどうですか？

黒：やっぱり苦労した分、喜びも大きかったです☆でも、会場でほかの学校の展示とプレゼンを見ていたら、発表する前からグランプリ取れるんじゃないかって薄々感じていましたね。(o-ωo)

橋：その自信ある感じ最高だね(´v´)/笑 情報大の名前が呼ばれたときびっくりしなかった(´-)/!?

黒：そのとき俺、いなかったからわからんわ(・へ・) 知ってるくせに〜(´Д`)/

橋：そおだっけ!?(´ω) 笑 あっ…トイレ行ってただっけ(・v・) 笑

黒：お腹痛かったんだからしょうがないじゃん…(・ω・)

イ：Caeccoを完成させるまでで、辛かったことはなんですか？

橋：会議とかで話すのが最初の頃すごい苦手で、伝えなきゃいけないこととかがメンバーにうまく伝えられなくて、いろんな人に迷惑かけまくったこと…あと期日までにやらなきゃなのに自分自身どうしていいか全然分かんなくてホント辛かった(´Д`A) ぶっちゃけ埼玉の実家に帰れなかったこともかなり辛かった(つω*)

黒：俺も、実家に帰れなかったことが辛かった…(ノv)

橋：Σ(´Д`)/実家暮らしのくせに(ー_ー)!! 黒田君は何が辛かった〜!?

黒：自分は今まで人に言われたものを作るだけだったけど、今回はクリエイティブリーダーとして、人に言ってもらってというのが初めてで慣れてなくて難しかった(ノw) 人をまとめるのは大変だなんていうのを実感したよ(ノD`o)

橋：人に指示するのってホントに大変だよな…しかも、毎日夜11時まで残ってやって休みもほとんどなかったしね(´Д`A)

黒：うんうん…それに、ほとんどパソコンで作業してたから体動かさないのも逆に疲れた(・へ・)

イ：では逆に、楽しかったことは？

橋：毎日いろんなことがあったこと(ノw`*) すっごいいろんなことがあったけど〜やっぱ毎日友達に会えて楽しかった★休みの日にもみんなが集まったりしてすっごい充実してた★新しい友達も増えたしね(*^v^*)

黒：俺もなんだかんだ充実してたかも(ノv) 俺のくだらない冗談で笑ってくれる人もいたし★

橋：打ち上げも楽しかったよね(´v´)/

黒：盛り上がったね(・v・) 入賞した記念品としてもらったのが、お菓子の箱みたいなのに、色の塗られた石がたくさん入ってるっていう変わったものだったんだけど、打ち上げの最後のほうでそれをひとりひとりに配ったよね(´ω`*)

橋：そうだったね(・v・)

イ：今後はどんな目標がありますか？

橋：自分の出したゴミを捨てないで、そのまま机の上に置いて教室から出て行く人とかいるから、Caeccoでエコ活動が好きな人が増えて、そういう人達がいなくなってほしい(ノw`*)!!! あとは、Caeccoの対応店をもっと増やして、たくさんの人にCaeccoを知ってもらいたい(´ω`*)

黒：Caeccoをもっと改良して、いろんなお店が取り入れられるようなものにしたい!! Caeccoが、取り入れてくれたお店のイメージを上げられるものにできればなと考えています。(v-)/

イ：最後にCaeccoを通してみなさんに伝えたいことはありますか？

橋：自分自身、このプロジェクトのおかげでエコ活動の楽しさを知ったから、Caeccoを知った全ての人にエコ活動の楽しさや大切さを知ってほしい(ノw`*)

黒：簡単にいえば、エコ活動をお金に変えるというCaeccoのシステムは、偽善的などと言われるかもしれませんが、どんなに道徳的にできあがった概念を持つものも、それが社会に溶け込んで実際に人々に利用されるようなものでなければ意味がありません!! 私たちは考えて考え込むことより、行動をするを選びました(・ω・) つまりはそういうことです!!

※イ…インタビューー

橋…橋本佳奈

黒…黒田学



私たち Caecco Projectチームは SMAFT2008で 「グランプリ」と「市民賞」を W受賞しました!!



SMAFT2008 (Sapporo Media Art Forum Trial 2008)とは?

北海道内の各大学・短大・専門学校が参加する学生グループによる対抗・提案コンペティション。今年のテーマは「環境～エコを捉えなおす～」。8月30日から31日にかけて、私たち情報大学Caecco Projectチームは、ブース展示とプレゼンテーションを行い、全7校の選抜グループとの激戦の末、グランプリと市民章をダブル受賞しました。

SMAFT2008を振り返って Caeccoのリーダー2人が対談しました。

プロジェクトリーダー
情報メディア学部2年

橋本佳奈

プロジェクト全体のスケジュールや班構成を管理し指揮をとる。

クリエイティブリーダー
情報メディア学部2年

黒田学

ロゴやパネルなど目に見えるもののデザイン全般を統括する。



Caeccoの手順

1.ログイン



初めての方は、まずIDを登録してください。
ID登録ページで、あなたの学生番号、パスワード、性別、年齢、学年、メールアドレスを入力してください。
登録完了したら、ログイン。あなたのマイページに飛びます。Caeccoへようこそ。



トップページ下部の「登録」をクリック



あなたの情報を入力してください。



トップページ下部の「送信」をクリック。ここにIDを入力して「送信」をクリック。



2.エコ活

エコ活(*)といっても難しく考えることはありません。身近で、小さなエコ活から始めましょう。(例: 分別、節電、節水、資源節約) 何事も、小さなことから始めてゆくのが大切です。*エコ活とは、エコ活動の略である。



3.送信

あなたのエコ活を、文章に残しましょう。文章に必要な情報は、①エコ活の種類、②どこで、③なにを、④どうした、です。それをCaecco携帯サイトに用意されているフォームから送信してください。
*送信は1日1回までとさせていただきます。



マイページ下部の「申請する」をクリック



文章例1



文章例2



5.クーポンと交換

ある程度までポイントを貯めたら、いよいよクーポンと交換です。100ポイントで、100円分のクーポンと交換できます。交換は情報大学の学生サポートセンターにて行っています。エコが、地球だけでなく、お財布にもやさしくなりますね。



4.ポイント取得

あなたのしたエコ活はポイントと取り換えっこされます。一回のエコ活につき10ポイントもらえます。たくさんエコ活をして、たくさんポイントを貯めましょう。貯まったポイントの残高は、マイページから確認できます。



マイページで確認できます。



情報大学 Caecco Project チーム

プロジェクトマネージャー…杉澤愛美/プロジェクトリーダー…橋本佳奈/クリエイティブリーダー…黒田学/デザイン班…伊藤みどり、中村啓一、小林達也/フラッシュ班…麻田侑希、工藤早苗、佐々木崇人/リサーチ班…大野佑太、加藤拓、植田哲平/携帯班…高橋達也、阿倍裕介、小笠原貴仁、坂田佳菜/山下輝久/サポート…伊藤佳祐、河野あかり、日下詩織、中野渡智恵美、林雅和、星健太郎/監修…斉藤一准教授、向田茂准教授、安田光孝准教授

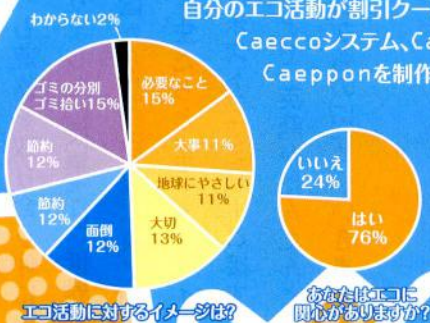


Caecco

=地×携帯アピール

2.Caecco project

私たちは、10～20代の学生を対象に、エコ活動に対する意識調査をWEB上で行いました。その結果、エコ活動に対して関心がある学生は70%以上であった半面、その活動にネガティブなイメージをもっている学生もいることがわかりました。そこで、エコ活動を楽しく行うことでネガティブなイメージを払拭し、エコ活動を促進しようというのがCaecco Projectです。Caeccoでエコ活動(=エコ活)をたくさん行い、地球にも自分にも楽しいエコ活をしましょう!今回は、自分のエコ活動が割引クーポンに換わるCaeccoシステム、Caecco mobile、Caepponを制作しました。



1.Caeccoとは?

Caecco...意識を & ポイントに & エコ
変える & 換える

エコを楽しいイメージに「変える」と、ポイントをクーポンに「換える」と「エコ」を組み合わせせて「Caecco(カエコ)」

3.Caeccoのシステム



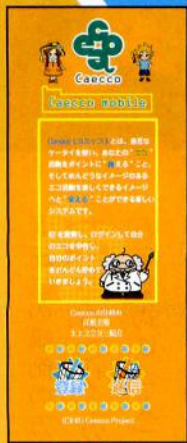
- ① IDを取得してログイン
- ② 節電や節水などのエコ活をし、専用フォームで送信
- ③ ポイントがもらえる
- ④ そのポイントが100ポイントたまると100円クーポンに交換

※江別市野幌周辺で使用可能

4.Caecco mobile

Caeccoの携帯WEBサイトです。ログインするとマイページに移動し、エコ活の申告とポイント確認ができます。

http://www4.atpages.jp/caeccos/caecco/caecco_top.html



トップページ



エコ申請フォーム。ここからあなたのしたエコ活を送信します。



携帯でQRコードを読み取ってください。

5.Caeppon

みんなが行ったエコ活動をグラフィカルに閲覧することができるコンテンツです。どのようなエコ活動があるのか新たに知ることができ、エコを捉えなおすことができます。



あなたのしたエコ活がカプセルに入れられロボットの中に貯まってゆきます。



カプセルをクリックすると中身を見ることができます。



これらは、SMAFT2008のブースで展示したパネルです。左はCaeccoの概要を説明したもの、右が登録からクーポン交換までの手順を示したものです。私たちはこのパネルを使いながら来場者に説明をしました。



カリフォルニアで 学生たちの成長を見届けた夏

経営情報学部教授 竹内 典彦



今年の「海外事情」アメリカ編は、16名の参加者を得て、8月3日～31日の29日間で実施されました。私は研修後半の付き添いをすべく、北京オリンピック真つ最中の8月14日に、カリフォルニア州のサンタクルーズに入りました。到着翌日の金曜日、学生たちと中華料理店で昼食をとりましたが、彼らの元気で明るい姿を見て、研修の成果が上がっていることを実感しました。彼らがアメリカにきた当初は、慣れるまで緊張の連続だったようです。それでも10日も経つと随分行動に余裕が出てくるようです。

日本からは情報大学以外からも東京理科大学、大阪大学等の学生たちが語学研修に来ていました。特に、大自然を満喫したヨセミテ国立公園へのフィールドトリップでもいっしょになった東京理科大学の学生たちとは、よく

行動をともしして、帰国してからも連絡を取り合う仲間になりました。授業では、世界各国から語学研修に来ている学生たちと、ホームステイではホストファミリーと接することで、英語がだんだんと身近なものになっていきました。

情報大学生の研修をサポートしてくれたのは、マンディ・オドムさんという学生スタッフで、彼女にはとても親身に接していただきました。学生たちは彼女が大好きになり、研修中ビーチバレーをしたり、トランプに興じたりして、大いに交流を深めていました。現地スタッフのニック、オタビオ、ジョシユ、リックたちとも、冗談を言いながら楽しく交流ができました。17日の日曜日には有道先生と先生の友人の方、マンディと彼女の友人たちも交えてサンフランシスコへの小旅行を楽しみまし



た。研修の終わり頃に訪れたインテル博物館も感動しました。

滞在の終盤になって、大統領選挙のための民主党の全国大会がテレビで中継されており、運良くオバマ候補(当時)の歴史に残るであろうスピーチを聞くことができました。彼の感動的で説得力のあるスピーチに、聴衆が呼応して雲囲気が最高潮に達する様子が印象的でした。共和党大会が始まる前に帰国しましたが、オバマ氏の選挙での勝利が予想できるほどでした。

マンディたちスタッフと語学研修の講師の方々、そしてホストファミリーの方たちとの卒業式は、一人一人の研修中の努力と交流の絆が実感できる感動的なものでした。現地で知り合った人たちとは、facebookというウェブ上のSNSを通して、交流ができるようになり、帰国してからも研修中の写真を載せたり、メッセージやチャットを通して英語にもふれることができて、実際に大いに利用しているようです。私自身もマンディやジョシユとチャットやメッセージの交換を楽しんでいます。最後になりましたが、「海外事情」ご担当の高野先生や、現地スタッフの皆様、ホストファミリーの方たち、そして楽しく行動をともにした学生諸君に、この場を借りて感謝の意を表したいと思えます。有り難うございました。



留学で芽生えた、 学生たちの独立心

経営情報学部准教授 有道出入

本年8月情報大生16名と一緒に渡米して、おかげさまで無事に帰ってきた。私にとって2回目の旅だったが、相変わらず皆にとって画期的な経験になったと感じた。

いつも最初から学生はビビった。それは「向こうで言葉が通じないとどうなる？怒られる？無視される？」などと自分を責める傾向が強かったが、私は「もちろん、そうならないよ。たいていあなたが英語のネイティブじゃないと分かって、ゆっくりしゃべってくれるから。心配不要」とアドバイスをした。「皆、リラックスして真剣に勉強するとどうにかなる。自分に自信を持って。いずれにせよ、問題があれば、先生がいるから、問題があったら相談しにきて。」それだけでいぶ心強くなるようになった。

だが、やがて学生は自分の経験を私のアドバイスより優先するようになった。確かにじりじりと自信が付いてきた。わずか10日間が経つと、ほとんどの学生は「先生、ごめんの問題がない。先生がトランプの相手以外は用がないよ」と独立宣言をした。ただ、「この言葉はどういう意味、どういう使い道か」とさんざん質問しにきた。でも、確かに僕は不要となった。相手側の先生と相談してきた。英語でしか交流できない友達を作った。おまけに「サンタークルーズ校の先生マンディーさんと恋に落ちた！」と叫ぶ学生2人もいた。それは自意識過剰かもしれないが、仕方があるまい。



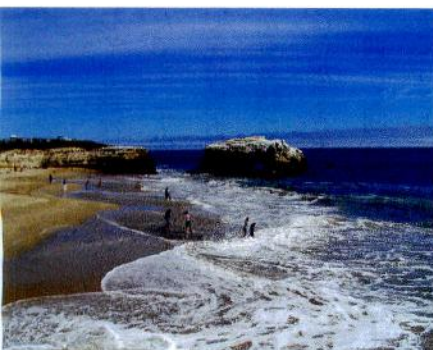
UNIVERSITY OF CALIFORNIA SANTA CRUZ EXTENSION Hokkaido Information University 2008 English Language and International Programs

そもそもサンタークルーズ市はいつも「英語を練習するプレイグラウンド」だと感じた。学校はダウンタウンのど真ん中なので買い物、食事、散策、ファーマーズマーケットはすぐそば(美味しい新鮮なカリフォルニア産の野菜で体の栄養タンクを満タン)。もちろん、ショッピングモール、バス、ビーチと「ボードワーク」という遊園地が備え付けられていて、アメリカの映画みたいに「アメリカン・スタイル」を満喫できる。これでパーフェクトな環境だと評価するところだが、災いが起きた。カリフォルニア大学が予算カットで、当プログラムのELL校が廃止となってしまった。地方新聞一面に載って、10年間あまり勤めた人は全員がリストラ。年内の卒業生が最後となる。この「きつぱり」の人をクビにする「アメリカン・スタイル」も痛感した。

私は新聞、大学、カリフォルニア

ア知事にも意見書を送信した。ELL校のプログラムのメリットを伝えようとし、アメリカン・スタイルでも論じてみた(経済的な議論を導入して、学生は将来の投資を見落とさないでほしい、など)。ELL校のスタッフはたいへん喜んだが、大学は立場を変えず、残念ながら来年以降、情報大生の米国側の開催場は未定となった。

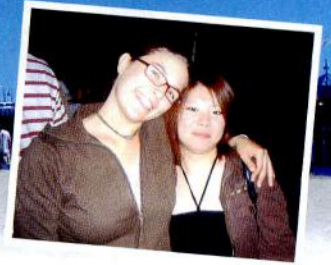
8月末ELL校の卒業式では、関係者の涙が止めどなく溢れていた。サンタークルーズにとって国際接触の手段が消えたと全員が痛感した。学生にとって言語やアメリカ生活の体験だけではなく、現実を知る経験ともなったと思った。





外国の人たちと 話せた喜び

情報メディア学部3年
小川 彩子



私は友達も、知り合いもない中、海外事情アメリカ編に参加しました。いっしょに参加したのは、学校ではあまり見かけたことのない人たちばかりでした。お互い話したこともなかった人たちでしたが、すぐに話せるようになりました。

アメリカ行きの機内からは、周りで話している言葉が英語でした。日本語が通じ合うのは自分たちしかいません。アメリカに着いてからは、たくさん説明を受けましたが、何を言っているのか、また書類に書いてあることも、すぐには理解で

きませんでした。

自分の言いたいことを、うまく表現することができない日が続きました。生活することが勉強でした。1週間ほど経つと、少しずつ話している事がわかってくるようになりました。買い物やお金の単位のこと、スムーズにできるようになりました。

英語を普段使っている人たちとの会話では、こちらが言いたいことを理解してくれたら、言い直したりしてくれましたが、留学生同士の会話は、お互いの母国語なまりがあり、聞き取れない箇所が多数ありました。ゆっくり話してもわからないのです。

中国語なまりは、話すのが速いだけですぐに慣れましたが、イタリアなまりは最後まで攻略できませんでした。相手からみれば日本語なまりが難しかったと思います。それでも同じ英語で通じ合うことがで



きます。他国の人と話すことが多かったのはホームステイ先が同じだったからです。ホストファミリーでは中国系の奥さんや、同じ学校に通うイタリア人と住んでいたからです。

ホームステイ先には0歳の双子の男の子、3歳の男の子がいました。早く家に帰った日や休みの日は子供と遊びました。どこの国の子供も同じようにわがままでした。朝から晩まで一緒に遊んだ日はとても疲れました。動き回るだけでなく英語での会話なので頭も使いっぱなしです。「Why?」と聞かれることが多く、答えるのがとても大変でした。説明

しても納得してもらえなかったです。子供向け番組を観ている時は、自分にもなんとかわかる英語なので一緒に楽しむことができました。

週に2回くらいのペースでビーチに行きました。ビーチでは冷たい太平洋の海に入ったり、ファミリーと一緒にJAZZのコンサートを観にいきました。昼間はとも日差しが強くて砂浜を裸足で歩くことができないほどでしたがビーチバレーは楽しかったです。

国立公園のヨセミテでは、今まで見たことのないほどの、大きな木や太い木で囲まれました。登山では登ったかいたて、とても素敵な風景に出会いました。生まれて初めて、滝の上流で遊びました。滝の上はとも水の流りが速く、滑りやすかったです。1か月はとも短く、あっという間に過ぎていきました。毎日が本当に楽しかったです。





「HOW DO YOU SAY I LOVE YOU?」

情報メディア学部2年 阿部紀直

サンタクルーズという街の一角にある大学「UCSC」の授業の一つで、私が最も恐れている授業である「ガーベージハント」というものが始まった。サンタクルーズに出て、授業で指示された質問を道行く人に尋ね、その答えを持ち帰って報告をする、というとてもシンプルな物なのだが……ここはアメリカ。その全てを英語で行わなければならない。英語は「ハロー」と「サンキュー」と「ニーハオ」が理解できる程度の能力くらいしか持っていないまま日本を飛び出してきた私にとっては、まさに地獄の語学留学だ。しかも、道行く人どころか教員にすら日本語が全く通じないので、英語がわからないのに英語を使って相談しなければならぬという高難度。とどめに私は重度の人見知りというワンツーパーチ。生きて帰ってこれたのが不思議なくらい



だ。というか、よくアメリカなんか行こうとしたものだ。そんな授業が毎日のようにあるものだから、現地で知り合った日本人と愚痴をこぼしあっていた私も、さすがに少しずつ英語を話せるようになってくる。この大学には日本の他にもサウジアラビア、タイ、中国、インド、イタリア、フランスなど、いろいろな国から英語を学びに来る人がいたので、どんどんコミュニケーションをとることに挑戦した。一つの言葉でいろいろな国の人と話ができるようになってからは、とても楽しく、刺激的で、

素晴らしい日々へと転じた。外国の人と思うと「コミュニケーションの取り方がシビアになると思ったのだが、それはただの偏見であった。私たちが昼休みにやっているような馬鹿馬鹿しい話で盛り上がった、ちょっと下品なジョーク(程度はあるが)を飛ばし合って、大声で笑い合うというのは、どここの国でも共通らしい。そこで私は、ペンとTシャツを持って、「HOW DO YOU SAY I LOVE YOU?」と聞いて回ることにした。どんなに英語が話せるようになって、やはり自分の国の言葉が好きなのだろう。各国の人が「俺も俺も」と言わんばかりに、「みんな私と私のTシャツに「愛してあげ」と書き込んだ。愛も万国共通なのである。そう、この留学で学ぶことは、なにも英語に限った話ではなかったのだ。様々な国の人との壁

を壊し、今まで遠い存在であった東京が「ちょっと行って来る」くらいの場所を感じられるほどに世界の広さを体で感じることが出来る。私が学んだことの数々は、A4サイズペーシ程度では説明がつかない。だから私は、今これを読んでる貴方に「親に借金してでも海外事情を履修すべきだ!」と強く勧めたい。こんなものを読んでるよりも実際に体験してもらいたいのだから、履修することになったら、白いTシャツと太いマーカーをお忘れなく。





本ゼミのキーワードは「映像／シヨートフィルム」。2008年から始まった新しいゼミです。現役の映画監督の指導の下、短編映画や映像作品の企画・制作・プロデュースを行っています。

現在のメンバーは3年生の8人。3年前半では、1週間に1本のペースでサイレント作品の制作から始まり、徐々に音声のある作品制作に移っていきます。脚本の執筆、ロケハン、キャストイングなどの制作準備、本番ではデジタルビデオカメラを使用した現場制作、編集・仕上げでは主にPremiereやAfter

Effectsなど動画編集・デザイン系ソフトウェアを使用します。映像コンペにも積極的に取り組んでおり、今年はNHKミニミニ映像大賞に2作品を応募。そのうち1本は国内外1001本の応募作品から1次審査74本

に残り、残念ながら2次審査では選にもれてしまいました。映像クリエイター・箭内道彦氏の目にとまり、東京で上映されました。他に学外の映像制作プロジェクトにも取り組んでいます。今年は札幌市の厚別区民祭りに撮影チームとして参加。2日間で10万人が来場するこのイベントに学生4人で4台のカメラを使い撮影、編集した映像を厚別区役所に納品しました。

現在は、1・2年生の希望者もスタッフに加え、全員で一本の短編映画を作るプロジェクトが進行中。映像制作を通して、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、ソフトウェア活用力を総合的に高めていきます。

Seminar Introduction

ゼミ紹介

西平ゼミ Nishihira Seminar

平成18年度に開設した医療情報学科の二期生も3年になり、いよいよゼミが開講しました。その中で、今回は西平ゼミを紹介します。本ゼミの学生数は6名。全員男子学生で気持ちの良い開闊な学生諸君です。個々の目標は異なりますが、将来の目的を見据え、充実した雰囲気の中で勉学に励んでいます。特定のテーマはありませんが、目標に沿う内容で課題を選択してもらい、勉強への挑戦と将来への礎になる知識や技術の習得に取り組んでいます。共通目標は、医療情報技師、診療情報管理士などの資格取得ですが、そのための最低限のサポートシステムは取り入れてあります。今は学生にとつて、希望と不安の交錯する時期。選択肢をできるだけ広く可能性を伸ばす環境作りにも腐心しています。本学科の教員として、医療情報学科で学んだことを将来いかしてもらいたいという希



望もあり、ネットワーク技術を使った遠隔医療や地域医療についても重点的に取り入れるつもりです。

現在、文部科学省の知的クラスター事業である「北海道の食素材を使った機能性食品の研究開発」の研究を受託していま

す。そのテーマは「食素材のデータベースの構築と臨床試験」。内容は、予防医学に関連したデータベースの構築とネットワークの設定が中心ですので、ゼミの研究テーマとしても一層発展させたいと考えています。このような実践的なプロジェクトにゼミ生が参加することで、実社会で活躍できる素地の形成に役立つよう願っています。本ゼミのモットーは、「責任ある自主性」。それぞれが個性をいかして自ら道を切り開く気持ちを育てることが目標です。このゼミ紹介を機会にゼミ生と共に頑張ってください。たいと気持ちを新たにしています。

Club クラブ紹介 Introduction



⑩ BASEBALL CLUB

硬式野球部

3年 小熊一也

僕たち情報大硬式野球部は札幌学生野球連盟に所属していて、現在は3部リーグですが春季での2部リーグ昇格を目指して練習をしています。練習は週5日やっていて、月曜と木曜が休みです。平日は授業の関係で、授業が終わった人たちから各自練習を始めて、人が集まり次第守備練習や打撃練習へと続きます。土・日・祝日は本格的なチームプレイの練習をしたり、練習試合を行ったりします。

チームの雰囲気は明るく、普段は先輩・後輩関係なくワイワイ騒いだり、遊んだりしているのが、簡単にチームに打ち解けこむことができると思います。硬式野球部に入りたいなと思ったら、見学でも良いので一度グラウ

ンドに来てください。

また選手だけではなく、マネージャーも募集しています。マネージャーの主な仕事は、練習のサポートや試合でのスコアラーなどです。スコアの書き方は顧問の浜淵先生が一から教えてくれるので、初心者でも大丈夫です!!

それから、硬式野球部のHPができました。そのHPには、部員の名簿や活動内容などが載っています。また、HP内のブログでは野球部の近況について書いていますので、ぜひ一度ご覧ください。

硬式野球部HPアドレス

<http://sports.geocities.jp/johodaigaku/index.html>

ヤル気のある選手・マネージャーの入部お待ちしております

PINE-NETⅡ 運用開始

～衛星回線から地上高速専用回線へ～

通信教育部

本学通信教育部は、遠隔教育の先駆けとして通信教育開学の1994年からPINE-NETの運用を続けてきました。メディアを使った授業としてリアルタイムで双方向の授業を正科生B(専門学校併修学生)へ衛星メディア授業として提供

してきました。

この間、デジタル技術の進展に伴い平成15年には、通信方式をアナログ方式からデジタル方式に変更し最先端の技術を取り込んだシステムに改良してきました。さらに、近年のインターネットに代表される地上回線

を利用した情報通信技術の発達を目を見張るものがあります。また、2011年から始まる地上デジタル放送に伴う画像圧縮技術や機器も著しい進歩を遂げています。これらを踏まえるとともに将来を見据えて、伝送方式を衛星回線から地上高速

専用回線に変更し、ハイビジョン放送にも対応するフルデジタルな放映設備に全面リニューアルして、2008年9月よりPINE-NETⅡとして生まれ変わりました。



都立東村山高等学校との 高大連携協定調印



このたび、都立東村山高等学校高等学校と高大連携の協定を結ぶこととなり、平成20年12月16日(木)都立東村山高等学校高等学校において調印が行われました。

本学通信教育部のeラーニング科目であるプログラミング基礎の講義を都立東村山高等学校高等学校の3年生が受講するもので、後期インターネットメディア授業をインターネットを介して都立東村山高等学校高等学校の実習室で受講し高校3学年選択科目「情報B」の



科目の一部として行われます。

この授業の成果は、「e-Learning活用の実践及び内容の検証」として、東京都高等学校情報教育研究会の全国大会等に発表する予定となっています。

インターネットを使った大学教育が教育環境を大きく



進展させている現状のなか、本学の取り組みは遠隔地間の高大連携にも道を開き、高等学校教育のバリエーションアップに寄与していくものと考えています。

学生サポート センター便り

留学生の 宿泊研修

学生サポートセンター事務局

夏季休業中の平成20年9月1日(月)、2日(火)、留学生宿泊研修として、国立ひだか青少年自然の家に行ってきました。

参加メンバーは、帰国している学生を除く、今年編入学した3年生17名と、先輩にあたる4年生3名、大学院生1名の学生21名と3名の引率職員、合計24名でした。今回の研修の主目的は、今年3月に来日した3年生の留学生生活半年間の総括と、先輩や同僚たちとの共同生活を通して夏季休業中の生

活リズムの安定化を図ることでした。

1日目は松尾記念館前に8時50分に集合し、貸切バスで目的地に直行しました。お昼前に日高青少年自然の家に着、入館手続きを済ませ、事前予約していたおにぎり弁当を持って、パークゴルフを楽しみました。ほとんどの学

生は初めての体験でしたが、ホールを重ねることに上達して行きました。元気が余って、ボールの代わりにクラブヘッドを飛ばす学生もおりました。幸い、怪我人は出ませんでした。やはり保険加入

は必要だと再認識しました。あいにく、後半は雨となり体育館に移動してインディ

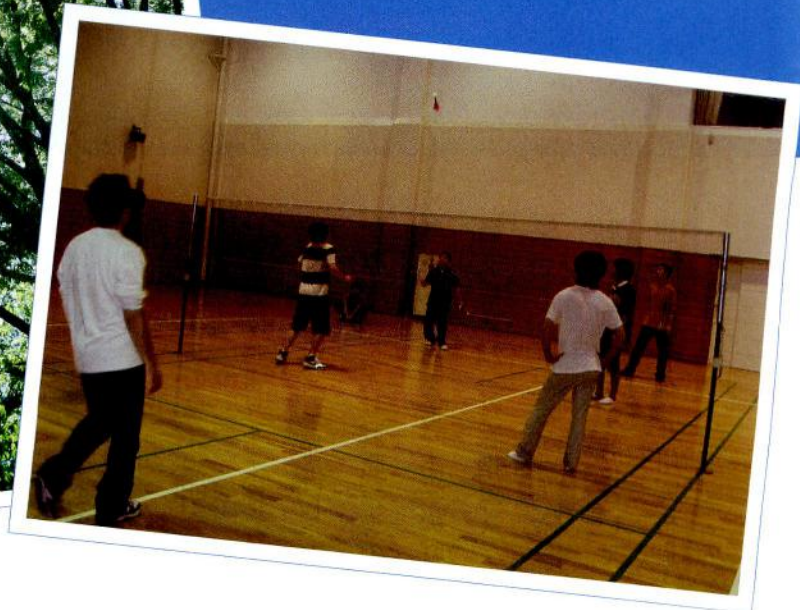
アカというスポーツに挑戦しました。羽つきのスポンジボールを素手で打ち合う、バレーボールに似た競技です。日頃の運動不足解消やストレス発散をすることができました。

汗をすっかり出した後、大浴場での裸同士のコミュニケーションや大食堂での夕食はとても開放的で楽しい時間でした。

夜は集会場で半年間の留学生生活の総括などについて全員が発表を行い、日常の学内では、気づかない各個人の性格や考え方などを知ることができました。

2日目は6時半に起床、7時から朝のつどいに参加しました。玄関前の広場に集合し各団体紹介の後に、ラジオ体操や国旗掲揚を他の団体(北大の学生、富良野の中学生)と一緒に行いました。21名の中国人留学生と





緒に、日の丸掲揚を行うにあたっては、複雑な心境になりましたが、彼らにとっては日本での留学を実感したひと時だったと思います。朝食を済ませ、各自の荷物整理の後は、全員で宿舎の清掃

を行いました。自分たちが使用したベットや部屋はもちろん、共用の玄関や靴箱周辺、またトイレなども1時間程度をかけて清掃しました。その後、担当者の清掃点検が行われ、トイレ便器掃除のやり直しの指摘を受けました。とても、よい経験ができたと思います。

昼は野外炊事を行いました。宿舎の前に流れる沙流川の川原でかまどを作り、火おこしに苦労しながらも、カレーライスや焼きそばを皆で協力して作り、楽しい昼食会ができました。食後は川原で童心に返っておもいっきり遊び、帰りのバスの中は全員ばく睡タイムでした。1泊2日と短い期間でしたが、目的を達成することができ、有意義な宿泊研修でした。

今年2008年は、中国は改革開放30周年の年でもあります。世界から良くと

悪くも注目された年でした。毒入り餃子事件、四川大地震、チベット自治区問題、北京オリンピック、神船7号打ち上げと宇宙遊泳など、大きなニュースが報道されました。

留学生の多くはインターネットや日本のテレビ等で自国の出来事をまさしく、情

報メディアを通して客観的に知ることになりました。留学生個人個人の想いは異なると思いますが、彼等にとつて本学での留学生活が貴重な体験となつて将来は、国際化社会で活躍してくれることを期待したいと思います。



学生サポート センター便り

保護者 懇談会を 実施

学生サポートセンター事務室

平成20年度の北海道情報大学保護者と教員との懇談会は、9月13日(土)に3学年生、9月27日(土)に1、2学年生の保護者を対象に本学において開催されました。3学年生の全体説明会では、嘉数学長より本学の現状・大学教育について報告し、中村就職部長より就職指導の基本的な考え方、本学の就職支援体制、就職指導スケジュール、求人動向、就職活動上の留意事項等について説明、次いで長井研究科長

から大学院の現状等について説明があり、その後個別懇談においては各学科のゼミ担当教員と保護者との間で、学生の成績、学生生活、就職の状況について率直な話し合いがなされました。

1、2学年生の保護者懇談会では、原副学長より挨拶の後、加納教養主任より1、2学年生の学生生活について説明があり、引続き木田教務課長より、成績表の見方・修得単位の目安・進級等について説明がなされた。その後各学科のクラス担任教員と保護者が主に学生の修学状況、成績、講義の出欠状況等について個別面談を行いました。

保護者の皆様のご関心は、学生の学業と学生生活の現況、卒業後の進路・就職活



動です。ご多忙中にもかかわらず大変多くの方々に、かつ遠方からも参加していただいたことを感謝いたします。



平成20年度 北海道情報大学 大学説明会 in 札幌

医療のIT化を支える
医療情報教育の現状

平成20年10月16日(木)

京王プラザホテル札幌で北海道情報大学大学説明会を実施いたしました。この説明会の目的は、主に道内に本社がある企業、また病院に対し本学の教育内容の説明と、学生の研究発表を通して、本学が目指す方向並びに平成22年3月に一期生が卒業する医療情報学科を理解していただくことです。

説明会は嘉数学長の挨拶に始まり、大学を巡る環境変化として、少子化時代を迎え、学士力の保証を行うため、教育課程の改革が叫ばれており、本学においても教育サービスの視点から諸制度等の見直しを行い、高度教育サービスの実現を図らねばならないという説明を行いました。

引き続き、学生の研究発



表として医療情報学科3年・年藤陽香さんから医療情報学科の学習内容、目指す資格、そしてそれらが医療機関への貢献にどうつながるのかという発表を行いました。次に、情報メディア学科4年・石井裕太君から「レポートのコピー&ペースト対策ソフットの試作」を発表いたしました。

その後、医療情報学科教

授医学博士西平順先生から「医療のIT化を支える医療情報教育の現状」と題して、医療のIT化政策の歴史と現状、また本学医療情報学科の教育システムなどの講演を行いました。

参加された企業、病院数は過去最高の160団体、参加者は218名でした。参加された方からは研究教育内容がよく理解できたと好評でした。



学生サポートセンター便り

平成20年度
北海道情報大学 大学説明会

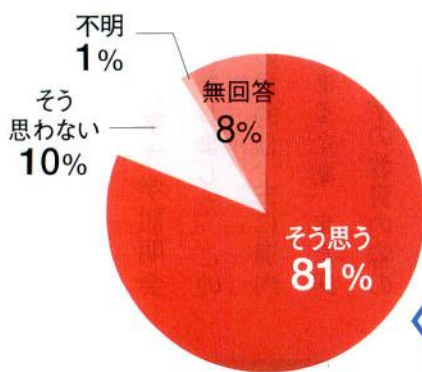
参加者アンケート 結果報告

～平成17年度との比較～

— 学生サポートセンター事務局
木下 篤史

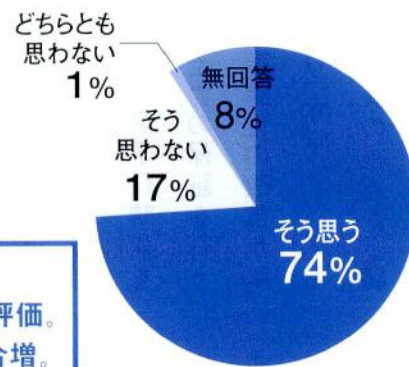
平成22年3月に初の卒業生を出す医療情報学科をコアにした、企業向け大学説明会は、平成20年10月16日(木)に京王プラザホテル札幌にて開催された。

今回の大学説明会には、160団体218名(内訳：企業関係125社175名、病院関係28団体35名、高校関係7校8名)と多くの方々にご参加いただき、病院関係者のみならず、医療情報システム分野に関係した企業関係者も多数参加するなど、本道初の医療情報学科卒業生への期待の大きさを伺わせるものがあった。



平成
20年度

ITに特化した
専門教育は高い評価。
「そう思う」の割合増。



平成
17年度

Comment

- IT(情報)に特化している
- 高い学力を追求するカリキュラム
- 即戦力社会人の創出
- 医療についての専門的分野の教育
- 医療分野におけるシステム開発、運用管理業務の人材に期待
- 時代に即応した医療情報学科の設置
- IT技術の基本をしっかり身につけている
- 就職活動に対する指導が積極的である
- 情報と市場にマッチした学部の設置
- 先端性
- e-learningの実践
- 病院経営とIT
- 学生の付加価値の賦与

◀ 医療情報学科への期待感高まる。

Comment

IT(情報)に特化している
通信教育の併設・充実
社会ニーズをとらえている
メディア教育の充実
就職率の高さ
ビジネス界に通用することを意識した教育内容
システムエンジニア・プログラマーとしての評価が高い
即戦力として期待できる
特色ある学科がある

Q1

本学は特色ある大学だと思われませんか？

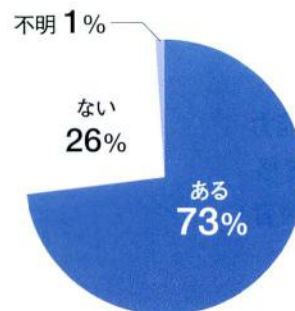
今回も、平成17年度と同様、ご参加いただいた皆様にアンケートにご協力いただき、参加者の約70%にあたる155名からの回答が得られ、この種のアンケートとしては高回答率となった。

前回の説明会は大学全般にわたる説明が行われたのに対し、今回は上述のように医療情報学科をコアにした説明会であったがゆえに、これら両者を比較するのはその正当性を主張できないことを承知の上で、あえてこれらを比較しつつ、結果をまとめて報告する。

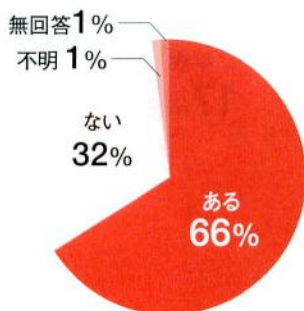
アンケートにご協力いただいた皆様に深く謝意を表し、具体的に今後の本学の学生教育サービスに活かしていきたい。

Q2 本学卒業生の採用経験

平成17年度



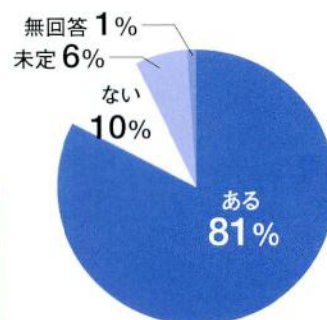
平成20年度



病院関係者の参加増による「採用経験あり」の割合減。

Q3 来年度以降、本学の学生を採用する予定はございますか？

平成17年度



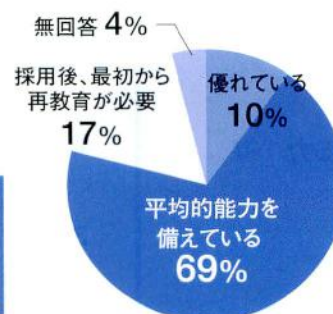
平成20年度



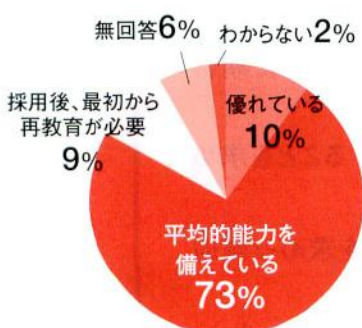
「採用予定あり」の割合減。景気減速の影響と考えられる。

Q4 本学学生の能力をどう思われますか？

平成17年度



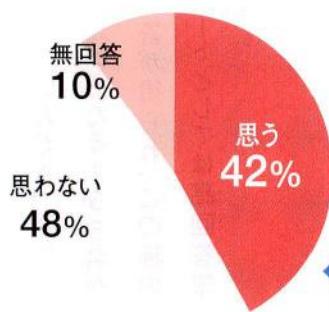
平成20年度



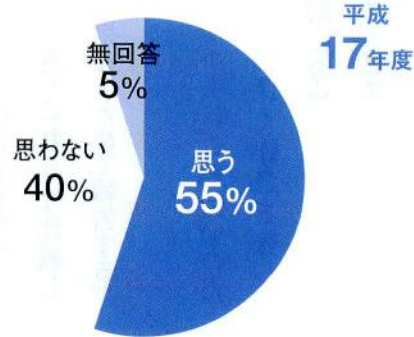
「入社後、最初から再教育が必要」の割合減。



学生サポート センター便り



資格取得を求める
動きが弱くなる。



Q5

御社の業務上、何か
資格の取得が必要
だと思われませんか？

Comment

- コミュニケーション能力
- 情報処理技術者資格
(特に基本情報技術者)
- 医療情報系資格
- 診療情報管理士資格
- 医療情報技師資格
- プログラミング能力
(Java,c,c++,.NET)
- データベースの基礎
- サーバ構築基礎
- ミドルウェア関連教育
- 組み込みソフト開発
- Web全般
- 文章力
- 実務経験
- 病院の経営に関する
基礎知識の習得
- 会社事務全般の基本
- 考える力、分析力
- 客観的に自己を見る力 等

平成
20年度

Comment

- コミュニケーション能力
- ヒューマンスキル
- 一般常識・マナー
- 実践的プログラミング能力
(Java,c,c++)
- 情報処理技術者資格
- ネットワーク系
- データベース、オラクル
- ベンダー資格
- コンピュータリテラシー
- Web系
- 組込系
- プレゼンテーション能力
- 仕事への責任意識 等

平成
17年度

Q6

特に大学在学中に学習しておいて
ほしい科目・分野(主な項目)

- 1.技術的な期待より、コミュニケーション能力に期待する傾向は変わらず。
- 2.入社前に現場での実務経験を体験することを求める回答が多くなった。
- 3.技術に加え、経営感覚を持った学生を求める傾向が強くなっている。



Gakusapo topics

ガクサポトピックス



「週刊東洋経済」学部別就職率ランキング 北海道・東北(文系)で上位独占!!!

業者数ー大学院進学者数)
これは就職決定者数÷(卒

業者数ー大学院進学者数)
の強さが実証されました。

「週刊東洋経済」(東洋経
済新報社発行)2008・10
・18特大号の、「本当に強い
大学2008年」地域別・学
部別就職率ランキングで、本
学の学部が右記の通りラン
クインしています。

今年も文系総合(全国)ラ
ンキングベスト100で、道
内私立大学では唯一本学の学
部が掲載され、「就職に強い
大学」を目指す本学としては、
全国的にも数字上での就職

で算出した平成20年3月卒
業生のデータです。

経営情報学部 通信教育部(正科生B)

北海道・東北地区 …… **1位**
全国 …… **4位**

経営情報学部

北海道・東北地区 …… **4位**
全国 …… **89位**

情報メディア学部

北海道・東北地区 …… **6位**



読売ウィークリー「就職に『超』強い大学400」で 道内私立大学1位!!!

「就職に強い大学」を目指
す本学としては、昨年度卒業
生も数字上で就職の強さを
実証することができました。

これは就職決定者数÷(卒
業者数ー大学院進学者数)×
100で算出した平成20年3
月卒業生(通信教育正科生B
を含む)データで、93・1%と
非常に高い数字を残すことが
出来ました。

読売ウィークリー2008・
8・3号の特集、「就職に『超』
強い大学400」(就職決定
者数300人以上)において
本学が昨年度に引き続き道
内私立大学で1位、全国でも
28位にランクインしています。

【参考資料】 1.「週刊東洋経済」(東洋経済新報社発行)2008.10.18特大号「本当に強い大学2008年」
2. 読売ウィークリー2008.8.3特集号「就職に『超』強い大学400」



教職員の動向

教員

(9月30日付) 退職 准教授 高瀬 央(先端経営学科)
(10月1日付) 採用 教授 蔵本 信比古(医療情報学科)

主要行事 (7月21日~12月20日)

法人本部

10月 9日(木) 評議員会・理事会
11月 26日(水) 札幌東労働基準監督署「労働安全衛生等調査」
12月 3日(水)~4日(木) 労使協議会
3日(水)~5日(金) 監査法人トーマツ「平成20年度期中監査」
9日(火) 北海道労働局総務部「労働保険料算定基礎調査」

大学

7月 22日 南京大学日本文化研修一行来学(24名)
25日 全学教授会
29日~8月2日 前期定期試験
8月 2日~3日 AO入学試験(A日程)
7日 江別消防署「消防設備点検」
26日~29日 追再試験
9月 7日 AO入学試験(B日程)
9日 教育研究評議会
12日 経営情報学部教授会
13日 保護者と教員との懇談会
16日~17日 スタートアッププログラム
18日 後期開講
19日 情報メディア学部教授会
26日 全学教授会
27日 保護者と教員との懇談会
10月 4日~5日 蒼天祭
10日 経営情報学部教授会
16日 大学説明会(京王プラザホテル札幌)
17日 情報メディア学部教授会
18日 編入学試験
18日~19日 AO入学試験(C日程)
20日 教育研究評議会
20日~24日 中学生職場体験
24日 全学教授会
11月 6日~7日 模擬評価
7日 PDCA研究会
8日 AOセミナー
14日 経営情報学部教授会
21日 情報メディア学部教授会
25日 教育研究評議会
27日 全学教授会
30日 推薦1期入学試験
12月 6日 編入学試験
10日 ハラスメント啓発学習会
12日 経営情報学部教授会
17日 教育研究評議会
19日 情報メディア学部教授会

通信教育部

7月22日~25日 前期衛星メディア授業科目試験
28日 新潟教育センター 大学見学
28日~8月2日 夏期スクーリング(1)
8月 4日~9日 夏期スクーリング(2)
11日~16日 夏期スクーリング(3)
22日 秋期第1回入学選考
23日~24日 前期印刷授業・インターネットメディア授業科目試験第1回
30日~31日 前期印刷授業・インターネットメディア授業科目試験第2回
9月 1日 後期衛星メディア授業放映開始
6日~7日 前期印刷授業・インターネットメディア授業科目試験第3回
8日 秋期第2回入学選考
22日 秋期第3回入学選考
28日 前期科目試験追試験
30日 前期卒業
10月 1日 秋期第4回入学選考
21日~24日 中学生職場体験受け入れ
24日 平成21年度第1回入学選考
24日~26日 後期地方スクーリング(1)
11月 4日~10日 後期レポート提出期間
13日 全国教育責任者協議会
14日~16日 後期地方スクーリング(2)
21日 平成21年度第2回入学選考
28日~30日 冬期スクーリング(1)
12月 8日~12日 後期衛星メディア授業科目試験
19日 平成21年度第3回入学選考

大学院

8月 6日・26日 修士論文及び特定課題研究中間報告会(兼 北海道情報大学学術奨学生選考会)
9月 20日 大学院入学選抜試験(1次募集)
11月 10日 研究科委員会
19日 研究科委員会
12月15日~18日 修士論文及び特定課題研究事前審査会

広報活動

進学相談会

7月:北海道 1会場(札幌) 群馬県 1会場(桐生)
8月:北海道 5会場(北見、釧路、帯広、旭川、札幌)
9月:北海道 4会場(函館、小樽、室蘭、苫小牧) 青森県 2会場(青森、八戸) 岩手県 1会場(盛岡)
秋田県 1会場(秋田)
11月:北海道 15会場(留萌、名寄、登別、小樽、留寿都、岩見沢、旭川、札幌(2)、帯広、釧路、北見、苫小牧(2)、函館) 埼玉県 1会場(さいたま) 神奈川県 1会場(横浜) 群馬県 1会場(桐生)
12月:北海道 8会場(江差、八雲、札幌(2)、滝川、旭川、帯広、釧路)

高校内ガイダンス

8月:北海道 5校(えりも高校、訓子府高校、札幌真栄高校、帯広三栄高校、津別高校)
9月:北海道 5校(旭川凌雲高校、北星学園大学附属高校、札幌北高校(定時制)、日高高校、帯広北高校)
埼玉県 1校(小松原高校) 千葉県 1校(敬愛学園高校) 東京都 1校(正則学園高校)
10月:北海道 2校(北海道栄高校、小樽桜陽高校) 東京都 3校(関東第一高校、東京実業高校、保善高校)
11月:北海道 15校(札幌南陵高校、札幌藻岩高校、斜里高校、旭川大学高校、小樽桜陽高校、池田高校、恵庭南高校、紋別高校、石狩翔陽高校、札幌拓北高校、札幌白石高校、小清水高校、旭川明成高校、帯広大谷高校、札幌第一高校) 東京都 3校(東海大学菅生高校、関東第一高校、昭和第一高校)
12月:北海道 16校(札幌北陵高校、札幌創成高校、寿都高校、岩見沢西高校、札幌北斗高校、札幌月寒高校、江別高校、札幌新陽高校、恵庭北高校、富良野緑峰高校、室蘭清水丘高校、浜頓別高校、札幌東豊高校、伊達高校、名寄光陵高校、伊達緑丘高校)

高校出張授業

8月:北海道 1校(石狩翔陽高校)
9月:北海道 2校(枝幸高校、稚内商工高校)
10月:東京都 1校(東京高校)
11月:北海道 2校(池田高校、江別高校)
12月:北海道 1校(津別高校)

高校訪問

7月:埼玉県 2校、千葉県 1校、東京都 1校、神奈川県 7校
8月:北海道 10校
9月:北海道 24校、青森県 30校、秋田県 30校、茨城県 2校、埼玉県 8校、千葉県 1校、東京都 11校、神奈川県 8校
10月:北海道 56校、岩手県 30校、群馬県 1校、埼玉県 4校、千葉県 1校、東京都 8校、神奈川県 4校
11月:北海道 116校、青森県 30校、栃木県 1校、埼玉県 2校、千葉県 2校
12月:北海道 132校、岩手県 26校、秋田県 30校、埼玉県 1校、神奈川県 1校

北海道情報大学通信教育部 入学説明会; 本学独自

7月;1会場(東京) 8月;1会場(鹿児島) 9月;2会場(東京、本学) 12月;3会場(名古屋、本学、大阪)

北海道情報大学通信教育部 合同入学説明会; 私大通教主催

8月;2会場(名古屋、大阪) 9月;3会場(東京、福岡、札幌)

AO入試・奨学金説明会

8月5日(火) 本学
9月13日(日) 本学

オープンキャンパス

7月26日(土) 本学
7月27日(日) 本学
8月2日(土) 北見、釧路、函館
8月3日(日) 旭川、帯広
8月24日(日) 本学
10月5日(日) 本学
11月9日(日) 本学

広報室来学者

7月23日(水) 日高高校(大学見学会:学生28名、教員7名)
8月1日(金) 水戸桐生高校(学校見学:学生1名)
9月25日(木) 大野農業高校(教員1名)
9月25日(木) 深川東高校(大学見学会:学生37名、教員2名)
9月25日(木) 江別高校(大学見学会:学生19名、教員1名)
9月26日(金) 江別高校(大学見学会:学生61名、教員2名)
10月21日(火) 千歳北陽高校(大学見学会:学生23名、教員1名)
10月22日(水) 野幌高校(大学見学会:学生44名、教員2名)
10月28日(日) 野幌中学校(学校見学:学生5名、教員1名)
10月30日(木) 新篠津小学校(大学・研究所見学:児童(5年生)26名、教員2名)
11月5日(水) 旭川竜谷高校(大学見学会:学生22名、教員1名)
11月6日(木) 清里高校(学校見学:学生3名)
11月21日(金) 訓子府高校(大学見学会:学生9名)
12月4日(木) 北広島西高校(大学見学会:学生24名、教員1名)

季節は冬に向かい寒さが押し寄せています。通信教育部では、恒例の教育責任者協議会を行いました。これは、専門学校との併修学生を担当いただいている全国の教育センターから教育責任者の方々にお集まりいただき本学通信教育の教育面での展望や在り方について、また実務的な内容を含めた検討や協議を行っています。時代の変化と通信学生の要望を踏まえ来年度からは、完全セメスター制(前後期同時開講)実施や試験制度の変更など制度が大きく変わる節目の年度となり、スムーズな移行が出来るように準備を整えています。

お悔やみ

本学の初代学長として今日の礎を築かれた木下重教先生が、12月5日逝去されました。享年86歳でした。多大なる尽力に感謝し、謹んで哀悼の意を表します。